



函館市議会議員 無所属

荒木あけみ

函館市議会議員 荒木あけみニュースレター 第 19-20 合併号 / 2020 年 3 月 / 発行責任者 荒木明美

2020 年も「提案」を続け、「結果」を求めていきます！

2020年、今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年。北海道ではマラソン・競歩競技、函館では6月14日に北海道での聖火ランナーが緑の島からスタート、と明るい幕開けを期待した矢先、急速に広まった新型コロナウイルス感染症。3月19日に北海道の緊急事態宣言は終了しましたが、世界的な感染拡大は留まるところを知らず、経済活動、市民生活に多大な影響を与えています。3月議会では早速、新型コロナウイルス感染症の対応について個人質問しました。皆様の声を届ける役目を今年も果たして参ります。

提案したことが予算化！

2月7日(金)は函館市の予算説明会でした。令和二年度の予算について市長・財務部長から全市議会議員が説明を受けました。

その中で、私が提案したことが二つ実を結びました。一つは、昨年9月議会で質問した「縄文文化センターへの学習機会確保」です(詳細は次頁)。函館市内にある国宝「中空土偶」が展示された縄文文化交流センター、その周辺の遺跡群。身近によい学びの場があるにも関わらず、市内の小中学生はほとんど行っておりません(函館市内の小・中学生は17,000人程度いる一方、縄文文化交流センターに入場するのは年間500~600名)。結果として、新規事業としての予算確保となりました。市立小学校の児童が、縄文文化交流センターや大船遺跡、垣ノ島遺跡を見学する郷土学習の実施として「郷土学習推進費」373万4千円の予算がつけました。

もう一つは、函館マラソン。昨年12月議会の一般質問でとりあげました(詳細は次々頁)。規模、評価に近い姫路城マラソンについて姫路市役所に調査へ行き比較対照しました。函館マラソンの予算は姫路の約1/2。予算・人員が少ない中、満足度向上のため工夫して取り組んでいること、参加者からの評価が高いこと、課題が出て翌年には改善していることを議場で評価しました。結果「函館マラソン大会開催負担金」が4,000万円(令和元年度は3,600万円)、400万円増となりました(参考:函館マラソンの経済波及効果推計は6億1千万円)。

一期目は、学校備品譲渡会、五稜郭公園花見グリーンシート、マザーズサポートステーションのパーテーション設置、予算化せずに対処できることでは成果がありましたが、二期目に入り予算化した結果を出せました。

10~1月 主なあしあと

- 10/2 林活議連研修会(今金町)
 - 10/5 女性防災講座、男女共同参画フォーラム
 - 10/10 市議会議長会研修会(苫小牧市)
 - 10/14 青函市議会議員交流(青森市)
 - 10/18 荒木あけみと語る会(末広町会館)
 - 10/21 経済建設常任委員会
 - 10/27 函館港大規模地震津波総合防災訓練
 - 11/4-5 姫路市視察(函館マラソン)
 - 11/7 麻薬覚醒剤乱用防止運動北海道大会
 - 11/11-13 委員会行政視察(金沢市、松本市)
 - 11/18 函館地方裁判所研修
 - 11/22 はこだて・女性大会(花びしホテル)
 - 12/2 市議会/定例会開会
 - 12/3-5 予算特別委員会分科会
 - 12/9 市議会/本会議
 - 12/10-12 市議会/一般質問、採決、閉会
 - 1/6 函館市年賀会(ホテル函館ロイヤル)
 - 1/7 函館市消防出初式(函館アリーナ)
 - 1/13 函館市成人祭(函館アリーナ)
 - 1/19 性暴力被害対策講座(中央病院)
 - 1/20-23 日本都市計画学会セミナー(東洋大)
 - 1/25 函館市民スポーツフェスティバル綱引き大会
 - 1/26 荒木あけみと語る会(函館アリーナ)
 - 1/27 西部地区第三方面合同避難訓練
- ※その他、調査、市政相談、市民活動等を日常的に行っております。

函館ドッグ前電停 ベンチ物語

「前は電停にベンチがあったのに、なくなったから待つのがゆるくない。」
9/28(土)第二船見町会館「荒木あけみと語る会」で語られたご意見。翌月曜に交通部へ確認しました。以前、市電の線路上にベンチがあったそうですが、板が壊れて2018年に撤去。保安上、軌道の上にモノを置くのは禁止なので、その後設置されませんでした。交通部内ですぐに検討し、10/3には電停前の自転車置き場横に設置するよう考えてくれました。場所を所管する土木部の許可を得て調達。はれて10/18に設置(基礎ブロックに固定)されました。
議会質問以外にも、このように市民の声を伝え、検討・対応してもらっています。



一般質問 (2019年9月、2期目2回目)

2019年9月18日(水)に60分一般質問をしました。以下は質問の一部ですので、全体をお知りになりたい方はインターネットで!!
函館市議会の様子動画サイトのYouTubeで見られます。「荒木明美 函館市議会 一般質問」と入力・検索し、動画を選択すると出てきます。



ポップカルチャーを活用した地域振興

※ポップカルチャー:アニメ、コスプレ、eスポーツなど

荒木: 昨年函館アリーナで開かれたアニメ(ラブライブ サンシャイン)のライブやその他のアニメ作品について、市としてどのような対応を行ったのか。

荒木の視点⇒アニメファンにとって「聖地」は一過性のものではなく、アニメ作品が人気の作品であれば経済波及効果も持続する。アニメツーリズムやポップカルチャーが観光資源として広がると全国・世界から多くのファンが訪れ、ファンと市民の良い関係が重要。

観光部: 昨年4月末のラブライブサンシャイン函館ユニットカーニバルには、全国から1万人超のファンが訪れた。このイベントに合わせ、ロケ地マップの作成、聖地巡礼に訪れる観光客向け誘導看板の設置、トイレの臨時開放等を行った。現在も聖地巡礼で多くのファンが来函。ラブライブのロケ地マップは三度の増刷を行い、累計5万部の発行。その他の作品では、本市が聖地認定されている薄桜鬼真改やアルゴナビス等があり、アニメツーリズムの観点から各種事業の展開や情報発信等で支援・協力。

ひとり親家庭への支援

荒木: ひとり親家庭への支援策として、子どもの生活実態調査の結果から「一人親家庭サポートステーション」や新しい給付金を2つ作ったが、調査結果のうち何を根拠にこれら3つの事業を決めたのか。

荒木の視点⇒市長は子どもの貧困と直結するひとり親家庭への支援に力を入れてきたが、支援策拡充が必要、と新しい施策の実施に至った。それらは何を根拠に立案されたのか、国の施策と比べてヌケはないか。ひとり親家庭にやさしい街になるために何が必要か。相談するのに抵抗感がある人とどう信頼関係を築くか。

子ども未来部: 平成29年度実施の子どもの生活実態調査では、悩みや困り事を相談する相手がないという割合が両親世帯に比べ一人親世帯で高くなっていたことや世帯の年収等から母子世帯の生活が厳しい傾向が明らかに。家庭訪問や付添支援等で機動性を持たせ、一人親家庭に関する窓口だと分かりやすくするため、ひとり親家庭サポートステーションを設置。子供の貧困解消にはひとり親家庭の経済的自立の支援を強化が必要なことから、一人親家庭技能取得支援給付金・一人親家庭等就労自立支援給付金の二つの給付金制度を創設した。

校外学習(遠足、水泳学習等)

荒木: 以前質問した、プールがない小学校の水泳学習での市民プール・民間施設利用の検討経過を伺いたい。

荒木の視点⇒プールのある学校とない学校では小学校6年間の水泳学習機会に差がある。借りに行く小学校の児童がプールに入れるのは、まだ寒い時期だったり、雨でも入らされたり。三方を海に囲まれた街として水泳機会の確保は大切ではないか。顔を水につけられない児童をなんとかしたい。

教育委員会: プール設置校と非設置校が複数で利用する「学校プール拠点化方式」のプール8校と市民プール、南茅部プールで全小学校がプール学習を実施。利用料金や日時・時間帯制限、一般利用者への影響等がある民間施設は利用していない。水泳学習の実施は悪天候で利用できない場合日程変更等を行い対応。今後も学校の要望等も踏まえて市民プールを利用した場合の実施期間を検討する等子ども達の水泳学習の機会の確保に努める。

荒木: 小中学生が地元への愛着や誇りを感じる取り組みとして、縄文文化交流センターを目的地とする遠足や社会科見学を行ってほしいが、考えを伺いたい。

荒木の視点⇒昨今の小学校の遠足は学校の近場が多い(函館山、函館公園、五稜郭公園、見晴公園、四季の杜公園等)。なぜ普段行けるところへ行くのか疑問に思う保護者もいる。遠足、又は総合学習等の機会を作り、縄文文化交流センターや縄文遺跡群に実際に行くことはできないか。

教育委員会: 子どもたちが縄文時代の人々の暮らしや文化について理解を深めることはもとより、世界遺産登録を目指している遺跡について理解を深めることにもつながり、地元への愛着や誇りを育む観点からも意義があると考え。縄文文化交流センターを活用した学習を行っている学校の紹介等、同センターの活用を各学校へ働きかける。

一般質問 (2019年12月 二期目3回目)

2019年12月12日(木)に一般質問に立ちました。以下、大綱毎に質問と答弁を挙げています。こちらもYouTubeで全60分間の質問を見ることができますのでご覧ください。



EBPM (証拠に基づく政策立案)

荒木: EBPM (証拠に基づく政策立案) について、市の認識はいかがなものか。

※EBPM: Evidence Based Policy Making

荒木の視点⇒函館市では、小規模事業も含めて年間1500~1600事業あるが、その評価は測定不能な指標が設定されているものもあり、事業効果を確認できないものもある。財政状況厳しい中、限られた資源を活用し課題解決に本当に効果のある手段に絞って実施することが必要。そのためにはEBPMを推進するべき。

企画部: EBPMは英国、米国等海外で使われている政策形成手法の一つ。日本でも政府全体としてEBPMに積極的に取り組むとして平成29年に推進委員会が設置され、各府省で具体的な取り組みが推進されつつある。函館も人口減少や少子高齢化の進行の中、厳しい財政状況で限られた人材や財源を有効活用するため、各種行政課題に対して効果的な政策を立案し、その効果を検証しながら取り組みを進めていくことが重要。そのため客観的なデータ等を活用したEBPMは、今後有効な政策立案手法の一つになると認識。

公園の管理と今後 (都市公園、帰属公園)

荒木: 街区公園等の小規模公園では、主に町会が委託を受けて年三回以上の草刈り、遊具のチェック、清掃等を行っている。町会での高齢化、人手不足は切迫した問題。家の近所にある小規模公園の維持管理で協力している町会数が減少しているがその対処は。

土木部: 現在54町会に、307か所の公園の草刈りや清掃、遊具等の施設の見回り点検をいただいている。今後、地域によっては高齢化等により人手不足が進み、町会による公園の維持管理に支障を来すことが想定されるため、幅広くボランティア活動に取り組んでいただくためパートナーシップとして参加しやすい仕組み作りについて検討する。

荒木の視点⇒函館市緑の基本計画が昨年改定。市が目指す「人口減少・高齢化、住民ニーズ多様化の中、培ってきた緑を次代に引き継ぐため、市民・事業者・行政が協働して保全や緑化活動に取り組むこと」について、具体策は見えているのか。

荒木: (小規模公園はメリットよりデメリットを感じる都市が増えており、ある程度面積のある機能的な公園が有益と感じているか) 都市公園等の機能転換や統廃合等、他都市の取り組み事例を参考として今後の公園の在り方について検討するとのことだったが、これまでの検討内容は。

土木部: 立地適正化計画に基づき、都市機能の集約・再編等によるコンパクトシティを推進しており、公園も地域ニーズを踏まえた新たな利活用や都市の集約化に対応した機能転換を考える必要あり。そのため手法の一つである近接し類似している小規模な公園を遊具、緑地、広場等各機能に特化した公園に転換する再整備は一部政令市と道内では札幌市が進めたばかり。引き続き情報収集に努めながら今後の公園の在り方を検討する。

荒木の視点⇒二年前に質問した帰属公園(未整備用地)の活用で「検討する」と答弁があった部分を質問したが、進捗は感じられなかった。上記質問に加え、未整備公園用地貸付のPRや有効活用方法について今後も追及していく。

函館マラソンの運営

荒木: 函館マラソンの目標は、①マラソン評価サイトで総合12位を高める ②1万人大会とする 将来的に1万人規模にする場合、メリットやのびしろはあるか。

教育委員会: 函館マラソンは8千名程度の定員でランナーを募集しているが、仮に1万人にした場合大きく2つのメリットがある。①参加料収入の増加。収入増加で記念品のグレードアップなどよりランナーの満足度を高められる。②より多くのランナーが訪れることによる地域経済への波及効果。当面は「質の向上」に取り組み、その成果を見据えた上で、さらなる規模拡大について検討する。

荒木の視点⇒規模・評価に近い姫路城マラソンと比べて、予算・人員が少ない中で函館マラソンはよく運営している。より高みを目指す中で、充足すべき部分は何か。

活動のあれこれ ～2020年2月まで。 荒木あけみの活動の一コマを写真でご紹介～



←1月下旬に参加した日本都市計画学会のセミナーの報告をしました。

後半は参加者の→皆様からご意見や質問を受け、翌日から調査に入りました。



荒木あけみと語る会 毎年年初は、函館アリーナ会議室です。30名以上の方にお越しいただきました。(1/26)



荒木あけみと語る会 末広町会館(10/18)



↑姫路城マラソンの調査。姫路市視察 (11/5)↑



経済建設常任委員会行政視察で金沢市、松本市訪問。(11/12)



←JR 金沢駅

五稜星の夢→
点灯式(12/1)
五稜郭公園の
堀の周りを電
球で星形に。



五稜星の夢の準備。高校野球部の生徒さんたちと一緒に、オンコに電球シートをかぶせます。(11月下旬)



北海道市議会議長会 道南支部
議員研修会@苫小牧市 (10/10)



はこだてひかりのガーデン
& 冬花火(2/9)



元旦は獅子に噛んで
もらうことになって
います(1/1)

ニュースレターの感想、市政へのご意見などお聞かせください！

郵送の方は → 〒040-0035 函館市松風町 17-10 未来へつなく荒木あけみネット

FAXの方は → 0138 (76) 3321

メールの方は → araki.akemi@gmail.com



ニュースレター封入作業のボランティアをしてくださる方も、募集しています！

荒木あけみホームページ : <http://www.arakiakemi.jp/>

未来へつなく荒木あけみネット Facebook ページ : <https://www.facebook.com/ARAKIAKEMInet>